

「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の 編集にあたって

城 和貴^{1,a)}

TOM の母体である MPS は 2014 年 9 月に 100 回目の研究会を開催することになるので、そこでのイベントをどのようにしようかというのがここ半年ばかりの MPS での運営委員会の審議事項でした。僕は MPS には 1997 年から幹事として運営に携るようになったため、MPS/TOM には 17 年もかかわっていることになります。よく続いたものだと思います。実は MPS の発表件数が少くて、TOM を出すことで MPS 会員を増やそうという意図があったのですが、それが見事に当たって現在の活発な MPS/TOM に繋がっているわけです。

さて、2013 年度 2 回目の TOM の発刊です。今号では、2012 年 12 月開催の MPS91（京都大学）ならびに 2013 年 2 月開催の MPS92（武雄温泉）に投稿されて採録された論文が 14 編と、2010 年 7 月にラスベガスで開催された MPS79（PDPTA2010 MPS workshop と同時開催）で MPS workshop として投稿し採録された国際会議論文をベースにした論文を TOM に投稿し採録された論文が 1 編の合計 15 編を掲載しており、13 編のオリジナル論文と 2 編の事例紹介論文となっています。TOM37 の採録論文数/投稿論文数は 15/21 で、採択率は 71% となっており、担当編集委員は安藤晋、北栄輔、北上始、久保山哲二、栗原聡、小林聡、柴田直樹、庄野逸、関嶋政和、高野茂、高間康史、田原康之、萩原茂樹、堀井宏祐、宮崎浩一、吉川大弘、吉田稔（敬称略）となっています。

TOM に掲載される論文はコンピュータサイエンスの境界領域を含む非常に広範囲なものになっています。そのため広い分野に対応できるように多くの編集委員を必要としています。これまで慢性的に編集委員が不足している状態です。TOM では編集委員を常時募集していますので、自薦・他薦を問わず興味のある方は城 (joe@ics.nara-wu.ac.jp) までご一報ください。

本論文誌の配布はオンライン版のみとなっています。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらもご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、

投稿案内などに関する最新の情報はすべて WWW ページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ウェブページ (<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>) よりたどることができますので、MPS 研究会および論文誌 TOM に関しては、そちらをご参照くださいますよう、お願い申し上げます。

¹ 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長
奈良女子大学

Nara Women's University, Nara 630-8506, Japan

^{a)} joe@ics.nara-wu.ac.jp